

純音聴力検査 (聞こえの検査)

検査時間
15分

○目的

音は外耳道を通り中耳（鼓膜・耳小骨）に伝わります。中耳に伝わった音は内耳（蝸牛）で電気信号に変換されて聴神経に伝わり、脳で音を感じます。

写真1 純音聴力検査



この検査ではどのくらい小さな音が聞こえるか、難聴があるかどうかを調べます。(写真1)

気導聴力と骨導聴力の2種類を検査することにより、難聴の種類・程度などを知ることができます。(図1)

○方法

気導聴力

両耳に気導受話器をあて外耳・中耳・内耳を通して音を聞き、音の経路に障害があるかどうかを調べます。

『ピー・ピー』や『プー・プー』などの音がかすかにでも聞こえてきたらボタンを押し、聞こえなくなったらはなします。125~8,000Hzの高さの異なる7つの音を片耳ずつ調べます。

骨導聴力

耳の後ろに骨導受話器をあて、直接内耳（蝸牛）に刺激を与えて音を聞きます。内耳やその奥の経路に障害があるかどうかを調べます。

気導聴力の検査と同様にかすかにでも音が聞こえてきたらボタンを押し、聞こえなくなったら放します。反対側の耳には雑音が入りますが、雑音は関係ありません。

※聴力により雑音は入らない場合もあります。

図1 オーディオグラム

